

退職にあたって

一般教科 勢田 勝郭



不肖勢田勝郭、本年三月末日をもって、本校を定年退職致します。

本校での21年間、常に、自分に対する肯定感を持って仕事をする事ができました。その間、教師冥利に尽きる思いも何度となく経験させて戴きました。罰が当たるくらい幸せな教師生活であったと感じております。幼い頃、弱虫の泣虫であった私には、他人に対する怯えのような感情があったこと、今なお記憶の底にあります。そんな「あかんたれ」の

私に、このような人生があろうとは、夢にも思わないう所でありました。私が生まれて以来出会った全ての人に、特に、お世話になった本校教職員の方々に、何より、卒業生・学生諸君に、感謝せねばと感じております。本当に有難うございました。本当に奈良高専の教師でよかったと思っています。本当に生まれてきてよかったと思っています。合掌。

“この世にし生まれしことぞ有難き何誇るべきこの身ならねど”

一般教科 木村 倫幸



1981(昭和56)年に着任して30年目で退職となりました。今更ながら思い出というのも大きいですから、最近読んだ本から一言。澤地久枝・半藤一利他著『日本海軍はなぜ過ったか』(岩波書店)に、エリート軍人教育の欠陥を指摘して、旧の陸軍大学校や海軍大学校では「何を教えたか」というと、参謀教育なんです。参謀教育とは何かという、戦術とか、本当に戦いに勝つことばかり勉強する項目が多くて、国際

法とか、いわゆる一般常識、そんな授業は本当に少ないんです。健全な良識ある人間をつくるという授業がとくに少ない。戦術のお化けみたいな軍人ばかりを養成しました」とありました。以て他山の石とすべき言葉だと思えます。高専独自の教育なるものが未だに不明で、高専の未来自体も薄明な時代、ここが肝心だと思います。

総務課 特任一般職員 穴田 善昭



高校を卒業した昭和41年4月、1期生が3年生になるとき、奈良高専にお世話になりました。配属されたのは厚生係(現在の学生係)で、授業料免除と奨学金関係、寮務関係が主たる仕事でした。当時奨学金の交付は手渡しで、毎月銀行員に来て貰い窓口で交付しているうちに、学生の顔と名前を覚えてしまい、年が近い(1期生は1歳下)せいか、友達のような感覚で仕事をしていたように思います。当時は、施設・設備が整備途中で、道路も余り舗装されておらず、

特に寮に行くときは、第一体育館横の道路はぬかるんで、長靴が必ず必要で、玄関、学生昇降口、寮玄関には靴洗機が設置されていました。

このようなことを思い出しながら、採用された時、定年まで勤められるか不安がありました。が、学生課、庶務課、会計課でいろんな仕事をさせていただき、再雇用を含め46年間を無事大過なく務めさせていただきましたのは、皆様方の御指導、ご協力のおかげと、厚くお礼申し上げます。

青少年のための科学の祭典2011奈良大会

電気工学科 土井 滋 貴

「青少年のための科学の祭典」は平成10年に第一回大会が奈良女子大学で開催されて以後、毎年秋に奈良女子大、奈良教育大、奈良高専の順に会場持ち回りで実施されている科学イベントです。今年は奈良教育大を会場に11月23日に実施され、県下の小中学生を中心にその保護者、出展者合わせて約1300名の方々に参加頂きました。本校からは、6テーマを出展し、教職員学生合わせて30名が参加いたしました。

イベントの概要はホームページでご確認いただけます。
→ <http://vivaldi.ics.nara-wu.ac.jp/kagaku2011/>

